

横浜版小中一貫教育 新羽中ブロック (ブロック校) 新羽中、新羽小

平成24年度より、横浜市立小・中学校は、全142ブロックで「横浜型小中一貫教育」が全面的にスタートしました。「横浜型小中一貫教育」とは、小中学校教職員が情報交換や連携をして、義務教育9年間の連続性を図った小中一貫カリキュラムに基づく教育活動を推進することです。このことによって、子どもの学力向上や児童生徒指導上の課題の解消を目指します。

新羽中ブロックの小中一貫教育スローガン

自ら学び、ともに学び合う子どもの育成

- 発達の特性を系統的に捉え、9年間を見据えた児童生徒指導の連携
- 小中の連携のもと、9年間を見据えた教育課程づくりの推進
- 地域の教育力を生かした教育活動の推進

取組

- ◇ **発達の特性を系統的に捉え、9年間を見据えた児童・生徒指導の連携をしています。**
 - ・ 小中相互に授業参観(6月、11月)を行い、指導観の共有化に努め、児童・生徒指導の在り方についても意見交換を行っています。
 - ・ 合同人権研修会(8月)を通して、小中での児童生徒指導のきまりなどをもとに話し合い、教職員の人権意識を高めるようにしています。
 - ・ 小学生の中学校授業参観・部活動見学会、中学生による生徒会説明会(10月)を行い、小中学校のなめらかな接続を図ります。
 - ・ 個別支援学級の交流会(年数回)を計画的に行い、小中9年間の見通しをもてるようにしています。
- ◇ **小中の連携のもと、9年間を見据えた教育課程作成を推進します。**
 - ・ 小中合同の研究会(6月、11月)を教科ごとに行い、共通する課題解決に向け、研究を深めています。
 - ・ 小中の研究の1年間を振り返ります。(1月)
- ◇ **地域の教育力を生かした教育活動を推進しています。**
 - ・ 地域の教育力を生かし、安心・安全を目指した教育活動である地域防災訓練が、小中の教育課程の中に位置づけられ、定着しています。(11月)
 - ・ 小中学校を会場にして、「飯ごう炊きさん大会」「ミニキャンプ」「新羽サマーフェスティバル」等、地域と協働した取り組みが行われています。



←小中合同研究の様子



地域防災訓練の様子→